

つくしだより



令和7年4月号

病院家族会交流会を通して

都連理事 中住 孝典

第4回目となる病院家族会交流会が3月20日(木)東京都障害者福祉会館で行われました。やすらぎ会(吉祥寺病院)むさしの会(NCNP)オリープ会(北千住旭クリニック)東大いちようの会(東大病院)あかね会(昭和大学附属烏山病院)しいのみ会(東京武蔵野病院)6病院家族会10名とつくし会役員9名ということで人数的には多くはありませんが反面、密度の濃い懇談がもてました。ただ当会に加入されている病院家族会は全部でも6病院+未加入の病院家族会は3病院(当会が把握している病院家族会)ですので病院家族会の数自体も少ない事をご理解ください。

【都連からの報告】

① 障害者運賃割引に関する100km以下の割引制限撤廃と今後の運動

② 単会数・会員数動向

③ 希望の丘八王子病院(旧滝山病院)の現状

④ 恩方病院見学会の報告

【各病院家族会からの報告の中で】

・どの病院家族会も長い歩みの中で家族会としての歴史をそれぞれが作ってきた重みを感じます。しかし会員や役員の高齢化が進み役員の成り手に苦労していたり更には家族会存続の危機感を強く感じている実態もあります。そのような中でも医師が家族会への入会を勧めて新規入会があったり、病院主催の集まりで家族会の説明を行い新規入会者が増えたという実践報告もあり、若い層を含めた新たな会員を増やすための不断の取り組みの必要性を改めて再確認する機会となりました。

・概ね病院や医療従事者が家族会には協力的であり場所の提供、職員が運営を支えてくれているところ、場所の提供協力はあるが家族会の独自性を尊重し、家族のみで運営を行っているところ、財政面、会場確保もすべて自前で苦労しているところ等、置かれている状況も様々ですが病院や医療従事者との緊密な連携の在り方を更に積極的に模索する必要性も共有できたように思います。

・中には会員がその病院の患者家族以外の方も多く含まれていたり、イベントや会議を通して行政とのつな

がりをもっていたり、病院家族会が病院と地域をつなぐ不可欠な存在であることも同時に確認されました。

【病院家族会の活性化に向けて】

「精神疾患は病院だけでは治せない、家族と一緒に治療にあたる必要がある」との医師の思いで家族会が発足した病院家族会もあります。地域家族会と病院家族会の違いは病院家族会には医療従事者が傍にいますという事。そのことを強みにして病院を活用し医療従事者との協力関係を維持し家族会の認知度を上げていく事が必要であり、家族会の灯りを消さないことの大切さを改めて再確認することができたように思います。当会も4月から全ての精神科病院に「つくしだより」を送り家族会の理解啓発に努め一つでも多くの精神科病院が家族会をもつことにつなぐといければと考えています。



青梅ほっと・スマイル10周年記念会

都連理事 中住 孝典

7年2月22日(土) 青梅ほっと・スマイルの10周年記念会を行いました。「青梅にも家族が欲しい」というご家族と共に平成25年12月に青梅市役所のホールで結成式を行いました。振り返ると10年が過ぎていました。10周年記念会にはほっと・スマイルの会員(家族や当事者)や近隣の家族会、公民の支援機関、医療関係など12ヶ所にわたる関係者を迎え総勢50名の記念会となりました。来賓として都議会都民ファースト代表の森村隆之様、東京つくし会理事の安藤万寿代様、FHMの会会長、小池角雄様より心暖かい励ましとご祝辞をいただきました。青梅市長、大勢待利明様、秋川病院院長、植田宏樹様、東京つくし会会長、眞壁博美様、西多摩虹の会、小笠原勝二様は都合によりご出席できませんでした。ご祝辞をいただき10周年記念誌に掲載させていただいております。少し格調高く、温かで和やかな会にしようと開会の時から参加者をピアノ演奏でお迎えする等、お話だけではなく音楽の演奏(ピアノ、マンドリン、シンギングボウル、ギター、ハモニカ)を盛り込み楽しい会となりました。家族会の活動は息の長い活動です。緩やかで包容力があり誰もが参加しやすい必要があります。

あるご家族が「ここに来るとほっと安心して笑顔で明日に向かえるような場」という思いを語られました。「ほっと・スマイル」の名称はそんなご家族の心からの思いや願いが込められています。人のつながりは何倍ものエネルギーを与えてくれます。一人では思いもつかない人智を与えてくれます。孤立からは何も生まれません。10年が経ち定例会の雰囲気もよく明るく支え合う場になっているように思われます。共に歩んできた10年、皆さん方と一緒に続けてこれてよかったと思っています。10周年を区切りとして更に歩みを進めていく良い機会となりました。ご参加いただいた皆様に改めて感謝いたします。

渋谷太陽の会 25周年記念行事

都連副会長 本田 道子

春の気配を感じ始めた3月14日定例会となっている第2金曜日の午後、いつもの会場で行いました。いつものとは「渋谷区役所の隣にある分庁舎「渋谷区子育てネウボラ」の中にある「中央保健相談所」の5階にある講堂です。

以前に今回同様、大下先生の講演会を同じ場所で行った時に、皆様から新しい建物で恵まれている、との感想でした。

そうです、渋谷太陽の会は保健所の職員が

らのサポートが手厚くてとても感謝しています。会場は通年この講堂を毎月第2と第4の金曜日の午後、4時までは使わせてもらっております。この会場の心配がない、ということは会の存続にとっては本当にありがたい感謝しています。

「太陽の会」はスタート時から保健師さん達のバックアップを受けながらの設立だったようです。立ち上げてくださった岡田さん、その後を引き継いでくださった関沢さん、そして本田が会長としては11年になり通算で25年、となりました。

保健所長の増田氏をはじめとして区長のビデオメッセージ、つくし会の眞壁会長などたくさんのお祝いのお言葉をいただきました。講演会をつつがなく終わった後、バイオリンの演奏によるビバルディの「四季」から「春」。会場にひととき春風が流れました。

こうして記念行事を行うことで、過去を振り返り現在地を確認しあい、より一層「渋谷太陽の会」が大切でかけがえのないもの、となりました。これから渋谷区と関係者に向けて発信を続ける勇気をいただきました。ご参加くださった皆様に感謝です。

2024年度「多摩ブロック交流会」開催

都連理事 安藤 万寿代

梅の花が咲く3月、今年度第2回多摩ブロック会議に18団体・34名が参加された。先ず、眞壁会長のご挨拶から2月22日都民講演会が都庁であり、77名の参加があった。秋には都知事ヒアリングがあり、精神障害団体の要望について2分間話したと話された。

(一)都連からの報告 ①2024年度単会数及び会員数が、登録単会数47団体・会員数810名で、2022年度よりも極端に減少している。今後は増員を目指したい。②今年度単会訪問の結果は17団体あり、理事が訪問した。③希望ヶ丘病院(旧滝山病院)事件で、毎月一回植松さんが虐待防止委員会に出席している。④NHKでのクローズアップ現代の放映がアンケートに基づいてあったが、全国的家族の現状が伝わり多くの方に理解されたのではないか。⑤恩方病院見学会が3回に分かれて行き、29名の方が見学をした。⑥2025年度評議員会・上半期講演会は6月19日(木)調布市文化会館(たづくり)で10時～16時に開催する。

(二)協議事項 ①2025年度単会訪問について新年度も家族会1件で受け付けます。②2026年度の要望をつくし会へ提出してください。③「つくしだより」の企画

について、単会からの情報を載せたらとの提案があり、会員の増加にも繋がるかと話された。

(三)質疑応答 ・希望ヶ丘病院(滝山病院)の件で、虐待防止委員会はいつまであるのか・希望ヶ丘病院の経営が心配です。【応答】虐待防止委員会はいつまでかは未定です。経営までは口を出せないが、赤字状態です。後半は、各家族会からの活動報告があり、「サンクラブ多摩」から今年20周年を迎えるが、講師の紹介をして欲しい等、様々な会の活発な活動報告があった。

23区ブロック会議

都連理事 寺澤 元一

今回のブロック会議では、情報共有と活発な議論をとおして、都連と単会の皆様との親睦を深めることができました。ご出席の皆さま、誠にありがとうございました。以下に、都連の主な報告事項をご紹介します。

① 新年度評議員会・上半期講演会を6月19日、調布市たづくりホールで開催。各単会では、評議員の推薦書をご提出願います。講演会は、日本精神科病院看護協会の草地仁史事務局長から「我が国の精神科病院医療」をお話いただきます。

② 今年度単会訪問は、47単会のうち20単会を訪問(23区ブロックは8単会)。新年度

の単会訪問調査票を通して、単会訪問のご依頼をお待ちしています。

③ 「希望の丘八王子病院」(旧滝山病院)は、新体制の下で、首都でも数少ない精神科の慢性期身体合併症への対応能力を強化(人工透析病床を従来6床から今後19床に増加)する等、改革に努力。他方、過去のイメージが祟り、低い病床稼働率や医療職の確保等で難渋しています。事件発覚当初から転院を希望していた患者の他病院による受け入れも滞っています。都連は、人道的・緊急避難的観点から、都立病院による受け入れを求めています。依然、実現していません。

④ NHKクローズアップ現代が2月に「国が精神科病院での精神患者の長期入院から地域移行を進める中、受け皿となる家族が負担を抱え込み、追いつめられる実態」をとり上げました。家族会にとり画期的な番組でした。都連は、番組の企画当初からかわり、精神障害者の家族の実態を把握する調査に全面協力しました。調査紙を配布できた会員の皆さん570名から370名の高率回答を得ました。調査結果は、「NHK精神疾患600万人独自アンケートで見えた“家族の実情”」でオンライン検索できます。

このコーナーは、家族会間やつくし会との情報交流の場です。より良い家族会活動のために皆様に役立つ場にしたいと思っています。載せたい情報を毎月 25 日までに、つくし会事務所に、メール (tsukushikai@chorus.ocn.ne.jp) または FAX (042-453-7534) でお寄せください。

【情報提供】 障害者交通費運賃割引の概要とその手続き

2025 年 4 月 1 日から JR と大手私鉄が精神障害者に対する運賃割引が実施されます。

- 京王、東急、京急 2023 年 10 月より実施 1 級の当事者と介助者 50%割引
 - 京成 1 級～3 級 2024 年 10 月より実施 1 級の当事者と介助者 50%割引
 - JR、東武、西武、小田急、2025 年 4 月 1 種(1 級のこと) の当事者と介助者 50%割引 100km(西武は 50km) 超の 1・2・3 級の当事者本人の利用 50%割引 この運賃割引の適用を受けるためには以下の手続きが必要です
- 【障害者手帳の交付日が 2025 年 11 月 30 日までのもの】2025 年 6 月 30 日までに 23 区は各保健相談所、多摩地区は市役所等の障害福祉課で、以降は都庁の精神保健医療課または中部総合精神保健センターで手続き。**

★ 講演会のお知らせ ★

○「親の高齢化に当事者はどう向き合うか
(介護の経験より)」

日時 5 月 10 日(土)午後 1 時半～4 時半
話し手 浅井久榮氏

(看護師 精神保健福祉士)
会場 文京シビックセンター 4 階

申込 文京区障害者基幹相談支援センター
03-5940-2903
会議室 B

○都民精神保健福祉会

「看護職からみた

精神科医療のこれから」

入院中心医療から

地域医療を目指して」

日時 6 月 19 日(木)午後 2 時～4 時

(受付・午後 1 時半～)

講師 草地仁史氏

(一般社団法人日本精神科看護協会

業務執行理事 政策企画局長)

会場 調布市民会館 たづくり

8 階映像シアター

定員 100 名、予約制 参加費無料

主催 都精民協、東京つくし会

問合せ先 東京つくし会事務局

042-453-7534

編集後記

この記事を書いている 3 月 28 日はソメイヨシノ桜が満開、気温の急上昇で一気に咲きました。年々増え続ける外国人の来日で桜の名所はどこも沢山の人がいっぱい。ゆつくり春を楽しむことができませんね。さて、話は変わりますが、4 月号の「つくしだより」から毎月、都内のすべての精神科病院にお送りすることになりました。今まで少ない財源の中で色々と考えてきましたが無理でした。しかし令和 7 年度より赤い羽根共同募金会に「つくしだより」発行の増刷をお願いしていたところ認められました。有難うございました。少しでも多くのご家族に、つくしだよりにより家族会を知っていただけたらと思います。

また、今後の検討課題ですけど、都内 47 家族会の情報案内をつくしだより発行時に都民の皆様にお届けできればいいなと考えています。現在は、講演会案内等を掲載していますが、それだけではなく、家族交流会や、各種イベントの案内など家族会が行っている行事をオープンな形にし、精神疾患を抱える家族に身近なものにしたいけらいいなと思っています。

都連副会長 植松 和光

つくしだよりは赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。